

俳句

大津俳句会

眼裏まなうらに残りて消えず寒椿

井芹眞一郎

初場所や初金星の勝名乗り

岩崎由美子

寒声や合唱サークル喉かかれて

大塚喜久子

子を頼り子に頼られて去年今年

岡崎 浩子

初弾やベートーヴェンの流れ出す

佐賀 久子

着ぶくれてなほも膨らむ旅靴

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

正月や地球静かに病んでいく

榮田しのぶ

日の当たる枯野ラジオよりマイウエイ

村田 健二

地球儀を曲がりくねって来る新年

志賀 孝子

打つ杭の確かなひびき初苗

田上 公代

紛争の飛び火あちこちオリオン座

木庭 杏子

鈍色の真珠真冬の雲になる

上杉 波

ざらついた地球の端で袖湯かな

矢嶋 道子

阿蘇の峰春の光に染まりゆく

梅木トキエ

セーターを子に贈りしはいつの日ぞ

塚本 洋子

短歌

大津短歌会

幼児が少女になりて母となり婆になりし
と夫の見立て

坂本 杲子

澄む空に弓なりの山の峰映えて古里の庭
に臨む鞍岳

豊岡ミツル

雛三羽育ちいる故斬られずと庭師は梯子
を降り来て告ぐ

吉永 恵子

しんしんと闇の深まる山間に浮かび上が
れり竹灯籠は

鞍 岳志

半世紀短歌と共に書き下し苦しき時代の
足跡を見る

菅野 静

五家荘平家の里は紅葉して落人しのぶ銀
杏の大樹

小平 善行